

平成25年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300087	事業の開始年月日	平成21年5月1日
		指定年月日	平成21年5月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 たかつ		
所在地	( 213-0031 ) 神奈川県川崎市高津区宇奈根635-2		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月16日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方の持っている力、能力を引き出し安心・安全に生活が送れるよう、職員には研修等により日々のケアに生かせるようにすること、家族よりの意向を理解し考慮すること、地域とのかかわりや交流により楽しみを見い出すことで支えあい個人の支援に努めている。
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年10月10日	評価機関 評価決定日	平成26年4月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所概要】</b> この事業所はJR南武線久地駅から徒歩12分の大通りから少し入った静かな住宅地にある。1階には法人のディサービス、2、3階がグループホームになっている。周辺には高齢者住宅、事業所敷地続きに連携医院、同法人の小規模多機能施設を併設するグループホームがある。このあたり一帯は他社の高齢者マンションも建設中で、医療と福祉の複合地域である。内部はキッチンとトイレを中心に回廊式の廊下の周りに居室がある。共用部分はゆったりと広く、生花を飾り、清掃が行き届き、清潔が保たれている。 <b>【理念に添ったケア】</b> 「人生の大先輩」「お互いを支え合って」「その人らしさを受け止める」「気づきのある生活」の4つの理念で、利用者の喜びのある生活を支えていくことを掲げている。更にユニットごとに目標を作り申し送り時や会議、事あるごとに、職員に意識付けをしている。小さな気づきを大事にしてみんなで話し合い、提案をサービスに反映させている。利用者の思いを汲取り、食べたいもの、やりたいことに出来るだけ活かせるようにしている。 <b>【外出支援】</b> 利用者家族から少しでも外出を多くして欲しいとの意見を入れて、地域パトロールとしての散歩、卵を買いに行く、納涼祭で地域の人達と交流している。また毎月、法人のバスを使い全員でバラ園や梨狩りに出かけている。敷地内のお社にお参りしたり、玄関先にテーブルを出してお茶会をしたりして、利用者が外に出て気分よく、元気に生活できるよう支援している。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語たかつ
ユニット名	2階

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである「お互いを支えあって」は職員、家族、地域との関りも含めており、その方らしさを受け止め、気付きのある生活ができるよう努めている。	開設前に職員で話し合っ、事業所の4つ理念「人生の大先輩」「お互いを支え合っ」「その人らしさを受け止める」「気づきのある生活」を決めた。更にユニットごとに毎年目標をたてている。理念を事務所に掲示し、目標は申し送り時に復唱している。月1回の会議や、必要に応じてその都度、話し合いケアで実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加。地域交流に利用者にも役割を持ってもらう防犯パトロール（散歩）も継続している。	宇奈根町内会に加入し、地域行事の出初式、夏祭り、納涼祭に参加している。職員が自治会総会に出席したり、防犯パトロールとして週に2回利用者の散歩時に協力したりしている。ゴスペル、民謡、津軽三味線などのボランティアが来所し利用者を楽しませている。YMCAの実習生や高校の夏休み体験ボランティアも来所した。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、利用者と触れ合いの機会を持っていただくと共に、認知症の人を理解いただくよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告を通し、日頃の生活や過ごし方などを理解していただく。参加の入居者様とご家族からの外出機会要望に対し、毎月1回以上を目標に外出の機会を設けている。	運営推進会議は2カ月に1回、近隣の法人グループホームと共同開催している。参加者は両事業所の家族、利用者、職員及び町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員である。事業所の運営状況や活動報告を行なっている。「実際に災害時には訓練のように行かないのでは」という意見があり、今後の対応を検討している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高津区の地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議の案内や相談・情報交換している。	高津区高齢者支援課の窓口に行き、更新申請や報告をしている。市や区から情報を得て感染症などの研修に参加している。区の高齢者支援課や地域包括支援センターと入居者の受け入れなどについて相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて職員への指導を継続している。必要に応じては、家族と十分話し合いを行っている。館内の施錠は行ってはいるが、1階のエントランスは防犯のため職員が閉鎖をしている。	契約書などに身体的拘束等を行わないことが明記されている。事業所の年間計画により職員に研修を行ない徹底している。利用者がベッドから転落する恐れもあるので、家族の了解のもとに今年6月から9月の間、ベッド柵を使用した。しかし、無くて良いことが確認された現在は使用していない。1階の玄関は家族の了承を得て防犯のため施錠している。ユニット間は施錠していない。エレベーターも自由に使用できる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修、会議にて虐待について学ぶ場を設けたりしている。職員同士で情報交換し虐待を見過ごさないよう意識を高く持つように心掛けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族より相談があり、提出書類やご本人の精神的支援について職員関係者と話し合いをしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、特に話し合いを多く持ち、お互いに納得の上で入居いただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご様子の手紙発送と事務所前に意見書の設置がある。ご家族からの意見要望は返信欄などで確認し、他者とのかわりでの朝礼挨拶や体操が継続できている。	家族の来所の折や、運営推進会議の時に意見を聞く。また、預り金明細の確認のために毎月、送る手紙に返信欄を設けて、意見・要望を記入してもらっている。「外出を増やして」との意見に応え、毎月の行事として外出を多くするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めている。行事について外出などの提案・企画・実施・報告が継続して出来ている。	管理者は、職員がスタッフ会議時のほか、いつでも意見が言えるように努めている。法人の方針で2階の職員休憩室に意見箱「気づきボックス」も置いている。管理者と職員の関係が良かったため直接、意見を言ってくる。職員の意見は、毎月のスタッフ会議、フロア会議、全体会議等で検討し、ケアの方法などに取入れている。職員の意見で、真夏に飾る生花を週に2度、活け換えるようにした。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件など考慮し雇入れを交わしている。資格手当や土日祝日手当の支給、資格取得支援の奨学金制度もあり整備できている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはアセスメントをしっかりとり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるよう努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、グループホームが適切かどうかを考慮して対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、支援できるよう、協力し合いながら生活できるように努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、又、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った実家にご家族と一緒に帰省をしたり、知人が定期的に尋ねて来られ近くへ散歩に行かれたり、納涼祭に参加して知人と逢われたり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	同級生や知人の訪問時には居室やリビングでお茶を出して、歓談してもらっている。町内会の納涼祭で昔の仲間に会ったり、近隣に馴染みの場所が多く、養鶏場に卵を買いに行くほか、多摩川の散歩、梨もぎ、バラ園にも行っている。電話の取り次ぎもする。家族が田舎への旅行に連れて行ってくれることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会、季節の行事等では、入居者様同士の親睦を図るため合同で行っている。違うフロアでも気軽に会話ができるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際は、必要とする情報や支援を本人・家族に提供するようにし、入院があれば見舞いも行き、手紙の発信により、良い関係性を継続できるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時々食べたい物があれば買い物に行く等対応している。こだわり品は自分で選んでいただくなど、支援すると共に個人の自立性を大切にしている。	職員は理念の「気づき」に基づき、利用者の毎日の会話や行動から意向を汲む努力をしている。「ピザを食べたい、」などの要望には宅配や買い物で出来る限り即時、対応している。整髪料などの好みがあれば、自分で選べるよう買い物に同行する。思いを表現出来ない人については声掛けの反応を見て、把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など、職員間で情報共有し入居してから、今までの生活習慣が可能な限り継続できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為にも、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を得て、作成にあたっている。	入居時のアセスメントを元に管理者が介護計画の原案を作り、職員と検討して作成する。支援項目に番号を付けて実施内容を個人記録に記録している。モニタリングは毎日行い、3ヵ月ごとに「モニタリングシート」で評価を行っている。それに基づいて、サービス担当者会議で職員、家族の意見、医師、看護師の情報を取り入れて見直す。通常は6ヶ月で、急変時にはその都度、見直しをする。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな情報や気づきを残す事が職員間の共通理解、共通ケアとなり、介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービスは何であるかを考え、次につなげるサービスがあればつなげていくように取りくんでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例で、地域自慢の梨狩りやばら苑観賞の参加、川崎市主催花火大会の館内見学などを通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診を受けている。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者全員が同一敷地内にある協力医による往診を月2回、2ユニット同時に受けている。耳鼻科や整形外科、眼科などは家族対応が原則であるが状態により職員が対応する。法人の看護師が週に2回程度来所し、医師と連携して健康管理を行なっている。ケアマネジャーと看護師が情報を共有し、状態に応じて介護計画に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週1回の看護職員による看護経過記録紙をもとに、職員への適切な指導を行う。主治医との共通の用紙でもあり連携できている。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院中のお見舞いや家族との連絡を取る事により、本人の状態を把握するよう努めている。医師の説明等に同席し医療従事者とも関係し支援している。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	指針について入居時に説明し同意を交わしている。家族の意向を確認している。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいる	重度化については「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」を契約時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。昨年度の「期待したい項目」に対して、他の施設のターミナルケアの事例を元に職員の研修を行ない、重度化対応が出来るよう取り組んでいる。まだ、看取りの例はない。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	社内研修にて急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	夜間時火災・日中災害火災想定で、消防署指導で訓練を実施。災害時応援等の協力を地域町内会、近隣施設から得ている。災害時備蓄品も備えている。	避難訓練は5月と11月の年2回、消防署指導のもと併設デイサービスと合同で夜間、昼間の両方を想定して行なっている。敷地内の法人花物語たかつ新館と医療機関などとは、近隣としての協力体制が出来ている。自治会関係者に出席を依頼しており、水消火器の使い方に1人、来所した。食料・飲料水は3日分、階段下に備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に意識し、言葉使いに配慮している。介助時、声掛けにて協力をしてもらいながら行っている。	職員は理念の「人生の先輩として尊敬、」を大事にしている。プライバシーや接遇、個人情報保護の研修を行ない、言葉づかいや態度に気を付けて、利用者に嫌な感じをさせないように努力している。利用者の個人情報に関する書類は事務室のキャビネットに施錠して保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為、言葉や他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態の支障にならない限り、自己決定できる支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣や配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先している。就寝時間も体調等に配慮し時間は決めていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意志や希望を尊重しながら、季節やTPOに合った身だしなみができるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、食事の準備・配膳・下膳・片付けなどを職員がするのではなく協力して作業を行っている。利用者が得意としている料理を作っていたりしている。	食材の専門業者のメニューで配達されたものを職員が調理をする。2ユニットとも同じ食材だが、それぞれの利用者の好むように工夫している。また状態を見て業者と相談し、メニューを変えている。手伝える利用者はお茶入れや下膳、食器洗いを職員と一緒にしている。外食や、宅配ピザ、弁当を作り郊外で食事をするなど利用者の好みに合わせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っている。食事量減少時は他食品や調理での工夫で補う。水分は時間や品物を変え補給している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践している。毎食後、職員による声掛けや介助により、利用者の口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄パターンを把握し、声掛けだけでなくご本人の訴えに気づきトイレでの排泄が出来るよう、誘導を行い、ケアに努めている。	個人記録のチェック表に記録した排泄パターンと利用者の様子から、トイレに誘導している。個人記録に最後の排便を記録し、利用者の体調を見て排便のケアにつなげている。出来るだけトイレでの排泄が出来るようにしている。夜間については、就寝前に誘導し吸収量の多いオムツやパッドにして、安眠できるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛を工夫している。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導をしている。入浴剤やゆず、菖蒲湯で季節感も感じて頂いている。	入浴は原則として週2～3回としているが、個人ごとの入浴の日は決めていない。最終入浴日を個人記録に記載し、週に2、3回は入れるようにしている。午前、午後に分けて4人位を目安に毎回、湯を代えている。入浴を嫌がる方には声掛けや誘導を工夫している。空調を使い寒くならないようにまた、季節の菖蒲湯などで、気持ちよく入浴している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠して頂けるよう、日中のお過ごしにも考慮し支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めている。パトロールも散歩ではあるが、近隣の防犯として役にたっている事を入居者には伝えている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援している。近隣の散歩や利用者の意見を取り入れ、近くのコンビニにお菓子を買ったり、ゆで卵を食べたいと地元の養鶏場に卵を買ったり出かけている。	近隣の散歩や買い物、外食、防犯パトロールの散歩、町内会の行事への参加している。毎月、全員で行ける外出を企画してコミュニティー（車いすや15人乗りの法人の車）での春と秋のバラ園や、梨狩り初詣などに出かけている。広い玄関前でお茶会をしたり、日光浴や敷地内のお社のお参りなど外に出ることを多くしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事業所で行っているが、近くのスーパーや商店での買い物を楽しめるよう支援している。自己管理にて所持している方もいて見守って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所設置の電話の利用や手紙のやり取りなど、家庭的な雰囲気が味わえるよう、可能な限りで対応している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とフロアには毎週季節の花を飾り楽しんでいる。フロアの壁には季節飾り物や思い出の写真飾っている。写真などを見ると思い出話などしている。	法人の方針もあり毎週生花を施設内に飾っている。職員が朝や夜勤の時にモップ掛けや毎日2回、手摺りを消毒をしている。また、定期的に業者が清掃を行ない清潔に保っている。リビングルームは採光が良く明るい。2つの大きなテーブル、窓際のソファでゆっくり過ごせるようにしている。利用者の作品を飾ったり、廊下には職員が工夫して構成した写真や折り紙の花が飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてくつろいだり、談話をしている。ご本人の意思を尊重し自由に過ごしていただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、安心して居心地よく生活できるよう、家族と一緒に工夫をしている。	各部屋の前には花の名前と各自の写真を入れた木のプレートが掛けられている。居室にはエアコン、ベッド、鏡、洗面台、温湿度計など備え付けられている。筆筒、椅子、机、冷蔵庫、テレビや、家族の写真、利用者の作品など好みの物を置いて過ごしよい部屋にしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援している。		

事業所名	花物語たかつ
ユニット名	3階

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである「お互いを支えあって」は職員、家族、地域との関りも含めており、その方らしさを受け止め、気付きのある生活ができるよう努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加。地域交流に利用者にも役割を持ってもらう防犯パトロール（散歩）も継続している。たかつ新館の利用者とも（行事参加）交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、利用者と触れ合いの機会を持っていただくと共に、認知症の人を理解いただくよう努めている。民生委員会合での見学会を実施、認知症や介護保険について理解いただいた。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告を通し、日頃の生活や過ごし方などを理解していただく。参加利用者様から意見をいただきサービスに反映している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高津区の地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議の案内や相談・情報交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修にて職員への指導を継続している。身体拘束を行っている利用者はいません。必用に応じては、家族と十分話し合いを行っていきます。館内の施錠は行ってはいないが、1階のエントランスは防犯のため職員が閉鎖をしている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修、会議にて虐待について学ぶ場を設けたりしています。職員同士で情報交換し虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心掛けています。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>家族より相談があり、提出書類やご本人の精神的支援について職員関係者と話し合いをしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、特に話し合いを多く持ち、お互いに納得の上で入居いただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月ご様子の手紙発送と事務所前に意見書の設置がある。家族より他利用者と一緒に欲しいとの要望があり、運営推進会にて話し合い朝礼挨拶や体操など取り入れた。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めている。行事について検討し、外出の機会を多くとの提案あり、企画を立て定期的に外出できている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件など考慮し雇入れを交わしている。資格手当や土日祝日手当の支給、資格取得支援の奨学金制度もあり整備できている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、GHが適切かどうかを考慮して対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、支援できるように、協力し合いながら生活できるように努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、又、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った実家にご家族と一緒に帰省をしたり、知人が定期的に尋ねて来られ近くへ散歩に行かれたり、納涼祭に参加して知人と逢われたり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会、季節の行事等では、入居者様同士の親睦を図るため合同で行っている。違うフロアでも気軽に会話が出るよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際は、必要とする情報や支援を本人・家族に提供するようにし、入院があれば見舞いも行き、手紙の発信により、良い関係性を継続できるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時々には食べたい物があれば買い物に行く等対応している。こだわり品は自分で選んでいただくなど、支援すると共に個人の自立性を大切にしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など、職員間で情報共有し入居してからも、今までの生活習慣が可能な限り継続できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為にも、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、作成にあたっている。		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	日々の細かな情報や気づきを残す事が職員間の共通理解、共通ケアとなり、介護計画に反映させている。		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	常に現状必要なサービスは何であるかを考え、次につなげるサービスがあればつなげていくように取りくんでいる。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	毎年恒例で、地域自慢の梨狩りやばら苑観賞の参加、川崎市主催花火大会の館内見学などを通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援している。		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	月2回の定期往診を受けている。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週1回の看護職員による看護経過記録紙をもとに、職員への適切な指導を行う。主治医との共通の用紙でもあり連携できている。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院中のお見舞いや家族との連絡を取る事により、本人の状態を把握するよう努めている。医師の説明等に同席し医療従事者とも関係し支援している。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	指針について入居時に説明し同意を交わしている。家族の意向を確認している。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいる		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	社内研修にて急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	夜間時火災・日中災害火災想定で、消防署指導で訓練を実施。災害時応援等の協力を地域町内会、近隣施設から得ている。災害時備蓄品も備えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に意識し、言葉使いに配慮している。着脱の順番も個人を尊重し対応している。介助拒否があり移乗難しい方は声かけ等行い立位の工夫をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為、言葉や他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態の支障にならない限り、自己決定できる支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣や配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先している。就寝時間も体調等に配慮し時間は決めていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意志や希望を尊重しながら、季節やTPOに合った身だしなみができるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、食事の準備・配膳・下膳・片付けなどを職員まかせでなく協力して作業を行うよう心掛けている。おやつ作りや外食なども楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っている。食事量減少時は他食品や調理での工夫で補う。水分は時間や品物を変え補給している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個別に応じたケアを実践している。毎食後、職員による声掛や介助により、利用者の口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>記録により排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう、誘導や声掛を行い、個別ケアに努めている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛を工夫している。拒否がある場合はその方に合わせた声掛や誘導をしている。入浴剤やゆず、菖蒲湯でも楽しんでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠して頂けるよう、日中のお過ごしにも考慮し支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めている。パトロールも散歩ではあるが、近隣の防犯として役にたっている事を入居者には伝えている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援している。近隣の散歩やコンピューターを使用し、森林公園やばら苑、あじさい寺へ出かけた。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事業所で行っているが、近くのスーパーや商店での買い物を楽しめるよう支援している。自己管理にて所持している方もいて見守って対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所設置の電話の利用や手紙のやり取りなど、家庭的な雰囲気が味わえるよう、可能な限りで対応している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とフロアには毎週季節の花を飾り楽しんでいる。フロアの壁には季節の絵や思い出の写真や本人作品等飾り、通るたびに会話が生まれています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてくつろいだり、談話をしている。ご本人の意思を尊重し自由に過ごしていただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、安心して居心地よく生活できるよう、家族と一緒に工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語たかつ  
 作成日 26年 5月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事を楽しむことのできる支援について好みのものを作ったり注文したり、外食などの支援をしていますが機会が少ない。	好みのものを作ったり注文したり、外食の機会を増やす。	誕生日会や行事などでは、好みのおやつを作ったり注文したり、又、季節に合わせた外出行事などでは、手作りお弁当やお店での食事を楽しむ。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。